

令和4年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学 校 名	一宮市立末広小学校	学校No.	26
-------	-----------	-------	----

1. 福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）

目標：すてきなえがおをひろげよう
～ 末広小の児童、先生みんなを笑顔にしよう～

計画：推進体制
委員会活動、総合的な学習、英語活動の3つの
柱で、福祉教育に取り組んだ。

2. 福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録）

- ・委員会活動
代表委員会…人権集会
JRC委員会…古切手回収、エコキャップ回収、
赤い羽根共同募金、手足の不自由な子どもを育てる運動
- 生活委員会…あいさつ運動
- ・総合的な学習…福祉実践教室

3. 福祉教育の成果と今後の課題

児童が「気づき、考え、振り返る」活動を実践してきた。エコキャップ回収や古切手回収などの呼びかけも意欲的に言い、より多くの人に協力してもらおうという気持ちで活動することができた。

しかし、それぞれの活動が「どのように福祉に貢献しているのかなど」、具体的に活動内容を理解している児童は少ない。

児童が「自分達で考え、行動する」ことに重点を置いて指導していきたい。

※上記内容を含むものであれば、本報告書の様式は問いません。

※当会ウェブサイトに掲載させていただきます。また、可能な限り各校でウェブサイト等に掲載してください。

令和4年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学 校 名	一宮市西成東小学校	学校No.	27
-------	-----------	-------	----

1 福祉教育の取り組み (目標・計画・推進体制)

本校は、社会福祉への関心と理解を深め、様々な体験活動や交流を通して『福祉の心』を育てることをねらいとし、主に5年生の「総合的な学習の時間」の活動を中心に教育活動を進めている。

5年生では、「こころのバリアフリー～ぼく、わたしにできること～」をテーマとし、以下のような目標を掲げ、計画立案、実践に取り組んだ。

目標 「ふ…ふだんの」「く…くらしの」「し…しあわせ」という、福祉の本質について理解を深め、学校、地域、家庭で自分に出来ることを追求し、実践する姿勢を養う。

2 福祉教育の具体的活動の内容 (活動の記録)

(1) 福祉のまちについての学習

福祉のまちづくりに関する資料を用意し、障害のある人に対する施設や道具などについて学習し、身の回りにある福祉について関心を持たせた。

(2) 福祉体験

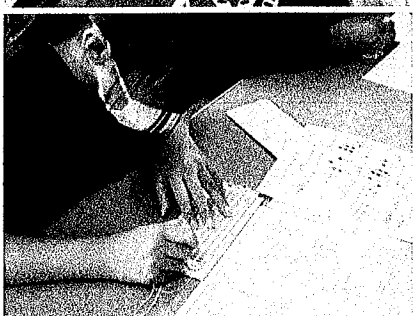
今年度は講師の方を招いて福祉実践教室を行った。

- ・車いす体験・・・車いすに乗った相手を移動させたり、自分で前進・方向転換したりする活動を行った。使う人の気持ちやどんな手助けができるのかを学ぶことができた。
- ・ガイドヘルプ体験・・・目の不自由な方について調べたうえで、アイマスクをする立場とガイドヘルプをする立場に分かれて体験をした。目の見えないことの怖さやガイドヘルプの難しさ・大切さを学ぶことができた。
- ・手話体験・・・生活で困ることやできる手助けについて学ぶことができた。動画を見て手話を体験し、耳の不自由な人とのコミュニケーションの仕方を学ぶことができた。
- ・点字体験・・・点字の読み書きを行いながら、講師や周りの友人と交流を図った。点字への理解が深まった。

(3) まとめの新聞またはスライド作り

総合的な学習の時間の福祉体験や調べ学習で学んだことをもとに、新聞またはスライドを作り、発表した。学んだことをもとに、自分たちにできることを考えさせ、記入させることによって、福祉に対する気持ちを深めることができた。





3 福祉教育の成果と今後の課題

今年度は久しぶりに講師の先生にご指導いただくことができ、子どもたちにとって大きな学びとなった。直接お言葉をいただくことで、物事を現実的に考えることができたのではないかと思います。また、実際に体験することで、生活の不自由さを実感させることができた。せっかく学んだことを忘れないためにも、一度の体験に留めず、継続的な指導が必要であると感じた。

令和4年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学 校 名	一宮市立今伊勢西小学校	学校N o.	28
-------	-------------	--------	----

1. 福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）

(1) 目標

- ・ 障害のある人々との交流を通して、お互いの良さを認め合い、心豊かな生活が送れるようにする。
- ・ 共生社会の構築に対し、主体的にかかわることのできる児童の育成を図る。

(2) 計画

- ・ 福祉実践教室 ・ 福祉実践教室の事前・事後指導 ・ あいさつ運動
- ・ スポーツフェスタや学校祭への高齢者の招待 ・ ベルマーク等の収集活動
- ・ 各種募金活動

(3) 推進体制

- ・ 計画に該当する学年または児童会・委員会で、計画的具体的に推進する。
- ・ 4年生の総合的な学習において、「福祉」について学び、理解を深める。また、4年生にて、福祉実践教室を実施する。

2. 福祉教育の具体的活動の内容

福祉実践教室

4年生が高齢者疑似体験とガイドヘルプの2つの講座に分かれて体験活動を行い、障害のある方への理解を深めることができた。また、まとめの新聞を作り白杖などの道具への理解も深めた。

(1) 高齢者疑似体験

体に重りをつけたり、視界が悪くなるメガネをつけたりして階段の上り下りをする活動を行った。活動を通して、高齢者の方々の体の動かしにくさを実感し、高齢者の方々への配慮と支援が必要であるという思いを持つことができた。

(2) ガイドヘルプ

アイマスクや白杖を使い、視覚障害者の方々の疑似体験やガイドヘルプの体験を行った。目が見えないととても怖いと感じるとともに、目が見えない人のために指示を出すことの大変さも学ぶことができた。

(3) 新聞作り

福祉実践教室で学んだことをもとに、障害のある方々の扱う白杖や車いす、盲導犬について調べ学習を行い、新聞にまとめた。まちで見かけた際に、手助けをしたいという感想を書く児童が多くいた。

3. 福祉教育の成果と今後の課題

様々な活動を通して、児童は福祉の必要性や大切さ、さらに福祉に携わる人々への気持ちや課題に対して理解を深めることができた。共生社会の一員としての自覚が高まり、障害のある方々へ優しい手を差し伸べようとする実践意欲の向上が見られた。しかし、コロナウィルスの影響で障害のある方々の生の声が十分聴けず、実感がわかない児童も見られた。また、日ごろの生活を見ていると、仲間を思いやろうとする意識は個人差が大きいので、道徳や総合的な学習の授業でも人を思いやる心を育てていきたい。

※上記内容を含むものであれば、本報告書の様式は問いません。

※当会ウェブサイトに掲載させていただきます。また、可能な限り各校でウェブサイト等に掲載してください。

令和4年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学 校 名	一宮市立葉栗北小学校	学校No.	29
-------	------------	-------	----

1 福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）

本校は、教育目標「伸びよ たくましく」の精神を学校教育の全面に生かし、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな児童の育成をめざし、日々の教育活動に取り組んでいる。

福祉教育では、みんなが住みよい社会にするために、自分たちにできることは何かを考え、進んで地域社会に奉仕しようとする「ともに生きる」心を育てることを目標とした。

2 福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録）

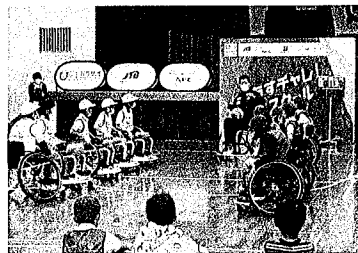
(1) 福祉実践教室（5年生）

車椅子体験、高齢者疑似体験、ガイドヘルプ、手話に分かれて体験をした。体験を通して、児童は、それぞれの福祉を必要としている方の苦勞を知るとともに、ボランティアの重要性や助け合うことの大切さを実感することができた。



(2) 車いすバスケットボール体験（5年生）

「あすチャレ！スクール」（主催：日本財団パラスポーツサポートセンター）プログラムの車いすバスケットボール体験を行った。パラリンピック男子車いすバスケットボール元日本代表の講師の方から説明や実演を受けた後、代表の児童が車いすバスケットボールの試合を行った。なかなか思うように車いすを操作することができず苦戦していたが、応援する子たちも一体となってゲームを楽しんでいた。体験を通して、児童は「興味を見つけて”楽しむこと”！」の大切さを感じていた。



(3) 学習発表会（5年生）

「ともに生きる」をテーマに、5年生が発表を行った。みんなが幸せな暮らしとはどういうことかを考え、各自で調べたことや体験したことを、多くの保護者の前で発表することができた。また、発表の資料作成のために、調べたりまとめたりする活動の中で、身近な暮らしにあるさまざまな工夫を学ぶことができた。



(4) 赤い羽根、緑の羽根の募金活動

朝の登校時に、児童会や園芸委員会の児童が中心になって募金活動を行った。募金の意義についての呼びかけもあり、多くの児童が募金に協力していた。募金活動を通して、一人一人にできることはわずかでも、積み重なれば大きな結果が得られるということや、自分の行動が、誰かの役に立つことがあるのだということを実感することができた。



3 福祉教育の成果と今後の課題

福祉教育には、それぞれの学年が総合的な学習の時間などを使って取り組んでいる。これらの学習を通して、子どもたちの心に芽吹いた福祉の意識をさらに高めていくためにも、これからも相手との温かいかわり方を体験を通して学ぶ機会をもち、進んで地域社会に奉仕しようという心を育てていきたい。

令和 4 年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学 校 名	一宮市立大和南小学校	学校 No.	30
-------	------------	--------	----

1. 福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）

ア 目標
 本校は、「知・徳・体の調和のとれた心豊かでたくましい児童を育成する」を目標に掲げ、
 『自立できる子』を目指し日々の教育活動に取り組んでいる。

イ 計画

- ① 福祉実践教室（4 年生）
- ② 「発見！カッコいいカード」の取り組み（通年）
- ③ ベルマーク収集活動（7 月・12 月・2 月）
- ④ 異学年交流【なかよしペア活動】（随時）
- ⑤ 人権週間（12 月）

2. 福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録）

ア 福祉実践教室
 4 年生が、福祉実践教室での経験をもとに、総合的な学習の時間に福祉についての調べ学習を行い、調べ、まとめた内容を学習発表会でそれぞれが発表した。
 また、6 年生も車いすを体験した。

イ 「発見！カッコいいカード」の取り組み
 『自立できる子』の足がかりとなる「自己肯定感」の育成を目指し、自分や人のよいところ（「カッコよさ」）を自分で見つけ、周りの人と認め合う活動を行った。

ウ 異学年交流【なかよしペア活動】
 6 年生と 1 年生、5 年生と 3 年生、4 年生と 2 年生をペア学年として、週に 1 回、中間放課・昼放課に交流活動を行った。また、一鉢運動に取り組み、11 月に卒業式に向けてパンジーを植えた。

わくわく交流会を-google クラスルームを活用して実施した。また、6 年生を送る会も-google クラスルームを活用し、6 年生の出し物を教室で視聴した。

エ 人権週間
 -google クラスルームを活用し、人権に関する校長の講話、各学級で考えた人権スローガンの発表を行った。その様子は、学校のホームページに掲載した。

3. 福祉教育の成果と今後の課題

今年度は、3 年ぶりに福祉実践教室を行うことができた。その際、福祉実践教室を 4 年生で経験できなかった 6 年生も車いすを体験することができた。

コロナも落ち着いてきているので、来年度は、受け入れてもらえる施設があれば、社会福祉施設等での訪問活動も復活させていきたい。

「発見！カッコいいカード」の取り組みにより、お互いの良いところを見つけ合い、児童の自己肯定感を高めることができた。

※上記内容を含むものであれば、本報告書の様式は問いません。

※当会ウェブサイトに掲載させていただきます。また、可能な限り各校でウェブサイト等に掲載してください。



福祉実践教室

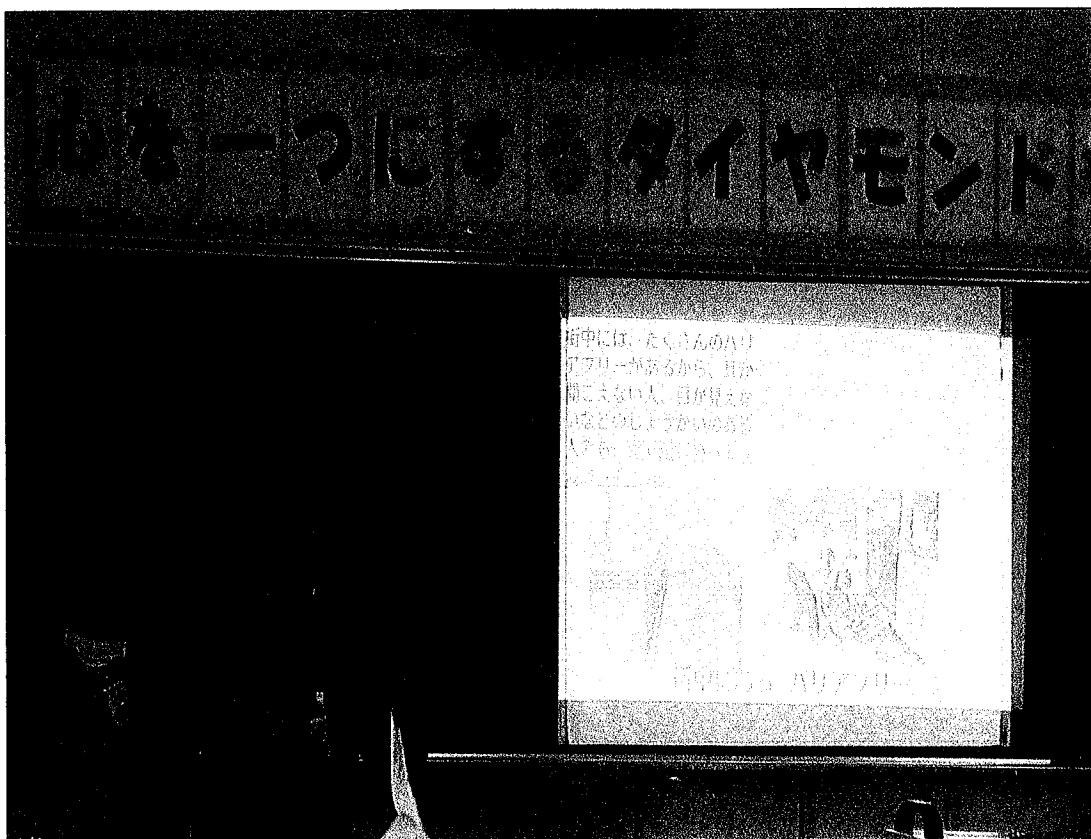


福祉実践教室 児童配付用資料

資料2



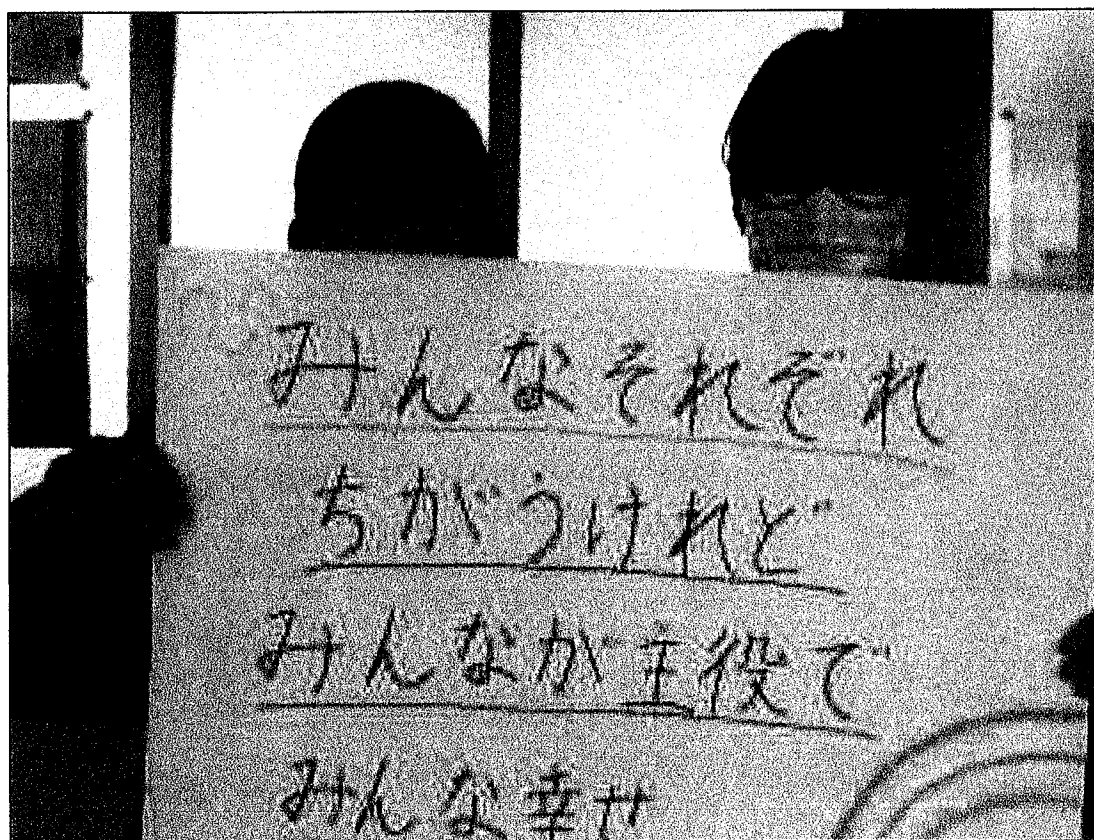
学習発表会(車イスについて)



学習発表会(バリアフリーについて)



人権集会(学級スローガン)



人権集会(学級スローガン)